



祖德先生答問書

續令群書類從
教育部
不用

下

仁仁
1204
3

34



門 仁 13
籍 1204
卷 8

但末先生答問書下



一
右ノ事聖人ノ書ニ有リシハ凡ソ信用ノ交ハカクハ信以
行下。是ハ理ヲ以テ智ヲ蔽フシ小量ノ水入リタルヲ汚ラズ作。
何事モ理密ヲモ測リテ以テ名ヲ取ル。凡ソ不入事ニハ成ル。
まがト策ヲ稽疑スルハ由相見ル。稽疑スルハ以テ信ト云
ハル。ト事トモウテウテ。今時世間トモ女子トモ之ノ好見ハ
長ハ只ハ先此吉凶ハ合セ不仕合と知リテ事ヲ為ス。たとひ

明日死すを今日悔ふ。好むは何の道と云ふ事。古く
ト並ハたつてハ云ハる。多クハ岐路ハ在ル。在リて去
ル事。左様な事。乃理見て云へり。乃理見て云へり。乃理見て云へり。
不戸の時。ト並と云ひて鬼怪の同ハる。是よりして行へり。
なき時。先達今年来し吉凶を知り。乃理見て云へり。乃理見て云へり。
事。是を稽疑と云ふ。又用物成務と云ふ事。相見て
ハ用物と云ふ事と云ふ。乃理見て云へり。乃理見て云へり。
民此よりいられり。乃理見て云へり。乃理見て云へり。
今迄なき事を云はれ。乃理見て云へり。乃理見て云へり。

セカと合せて人云ふ。何の事も勤まらば成就す。勤めざれば
成就せぬ。乃理見て云へり。乃理見て云へり。
らなき事と云ふ。乃理見て云へり。乃理見て云へり。
成就す。乃理見て云へり。乃理見て云へり。
事。人智人力のなきに限り有る事。乃理見て云へり。乃理見て云へり。
活也。乃理見て云へり。乃理見て云へり。
無盡し。變動あり。乃理見て云へり。乃理見て云へり。
是の事。乃理見て云へり。乃理見て云へり。
乃理見て云へり。乃理見て云へり。
乃理見て云へり。乃理見て云へり。
乃理見て云へり。乃理見て云へり。
乃理見て云へり。乃理見て云へり。

取けを成すに... 人智人力の... 場... 天命を知りて心を... 天地鬼神の... 勤めぬ... 疑ひ... 破き... 大津... 力を...

計... 櫓城... 船底... 生路を得... 死... 又戰場... 基... 三百六十一... 戦の...

かり事その高を。治世の人を大勢あつてひりりして
あつても火急かりにさうして作。是よりしていかに
兵法は云々氣風角に並べ厭勝のた有しり。是皆
流雲の心と一ツして其のさと勤志むら古今一轍し。
理学の過つても皆小量に成。蟹乃甲に似せて定を
あつて。何れも皆己の身ひらうとあひぬれ。聖人の
乃ハ國天下と治むるなり。事とん一つのほうと定まらそ。
偶治玉平天下の業を論り。只を理と知。心計なり。
是とゆふ上ハ心付あらず。事と人智人かれまき不

中天命乃上の事も理をまひり。是れは是より
して聖人のト並と用り。乃ハ合兵未平に。此等
功積り。次第に大量に成り。清疑い有る事。が祖考
と進り心得の成り。

一世の上武士道と申す。一筋古書に有る。是れ
乃ハ。あひ。人を治むるなり。成り。此れは。何れ
道理と申すのなり。玉天下治むるなり。此れは。何れ
老莊の自然。申すの刑名。元より玉を治むる道。此れは
農圃。盧扁の醫術。郭橐駝の種樹。柳子厚の都料通

類也。後二言。既。世。上。中。の。武。乃。と。い。は。多。く。六。賊。小
之。時。か。し。名。約。の。篇。と。流。傳。て。軍。者。杯。の。一。を。也。元。う。お
と。法。め。士。卒。を。引。出。し。多。い。人。の。乃。を。也。は。た。る。ま。き
少。も。わ。か。ら。ぬ。然。れ。聖。人。の。道。は。行。は。ら。ぬ。何。と。て。西。さ。り
下。ふ。其。道。を。論。し。る。ま。が。多。く。人。を。論。し。る。あ。ら。ん。な。ら。ぬ。
古。し。形。勢。考。氏。正。成。等。し。り。進。く。は。佐。玄。謙。信。に。對。し。て。
其。人。の。順。否。得。失。を。明。か。り。事。は。た。ぬ。も。そ。乃。と。い。は。一。作
節。も。押。さ。ぬ。也。し。り。古。く。書。く。有。し。は。乃。云。望。し。り。の。下
孫。子。呉。子。韓。信。諸。葛。亮。明。孝。誘。の。類。は。乃。方。々。も。亦。家

者。既。は。是。等。ハ。所。し。そ。ひ。ら。ぬ。也。な。さ。れ。よ。は。人。も。別
武。乃。と。い。は。事。と。な。ま。り。の。ハ。多。し。は。事。の。起。り。吾。國。に。俗
説。く。又。武。乃。と。い。は。何。有。し。は。是。ハ。中。古。より。云。武。乃。と。い
は。別。道。の。し。り。云。武。乃。は。武。乃。と。文。乃。と。是。人。武。乃。は。武
乃。と。武。乃。と。名。付。は。俗。説。と。し。事。は。詩。歌。も。馬。も。歷
史。も。文。書。も。武。乃。と。名。付。は。多。く。名。付。は。多。く。武。乃。と。い。は。武。乃。
は。武。官。家。を。世。し。は。た。ぬ。一。種。の。風。俗。自。然。に。あ。ら。ぬ。
大。抵。勇。と。尚。ひ。死。と。い。は。た。ぬ。恥。と。知。り。信。を。重。ん。ぶ。む。き
き。に。あ。ら。ぬ。と。男。子。れ。せ。き。事。と。立。は。た。ぬ。し。り。源。平。の。時

分は通る。いろき。世久しく。戦ふ。かり。世。軍
中の法令をひて。玉と作る。其後。天下。一統。して。何事も
文盲。古と稽。一。文。種。了。返。事。と。志。了。也。古。卒。の。今。も
亦。り。も。友。儀。も。軍。中。の。役。割。と。甚。何。も。用。ひ。政。治。も。軍
中。の。法。令。を。改。り。改。め。是。より。して。武。威。を。ひ。て。い。き。つ。け。何
事。も。簡。易。經。直。か。ら。筋。を。貴。ひ。り。ゆ。を。武。家。の。治。め。や
ま。て。是。吾。邦。も。古。より。傳。り。り。武。乃。い。か。り。り。文。盲。が
も。れ。は。い。も。つ。た。い。軍。者。杯。より。者。儒。書。の。か。り。り。と
ま。い。乾。元。剛。健。の。徳。か。り。り。中。の。事。と。は。は。武。家。の。戦。國

武家治世の源平時代

名。の。上。附。會。一。或。武。乃。中。の。神。乃。也。一。向
よ。建。立。し。は。何。も。不。成。さ。り。あ。る。ま。り。と。す。は。た
是。皆。武。家。の。事。也。源。平。此。時。代。の。事。也。一。事
也。治。世。之。後。續。き。風。俗。移。り。は。結。句。は。源。平。の
時。分。の。武。士。の。風。俗。の。事。也。只。戦。ふ。乃。時。附。源。平。の。風。俗
乃。也。治。世。の。事。也。新。治。武。乃。字。也。戦。亂。也。一。訓。の
事。也。亂。逆。を。靜。め。武。乃。也。され。武。の。中。の。民。と
安。ん。心。より。亂。逆。を。靜。め。武。乃。を。安。ん。心。乃。也。是
則。聖。人。の。乃。の。一。場。也。治。世。の。時。文。を。用。ひ。亂。る。時。是

の事。理窟づけくはるるをくく之り。新とひて大と改ひ
し。かゝりやしい。ひし

一 治政事。無もき。人しり付て一生とて送人しぬ。
も尚れ。の友。我ゆ。中。并。世に有し。淨法。及。朱子
学。陽明。学。杯。し。内。心。法。と。お。細。ら。法。の。付。わ。心。し。愛。も
恐。も。物。し。惑。も。少。く。成。り。成。術。お。も。有。く。思。古。代。又。大
し。あ。い。か。も。子。也。く。小。量。の。人。し。身。心。と。治。り。善。行。
術。も。有。く。ふ。く。生。業。に。り。法。波。也。知。り。其。後。先。王。の。教
も。大。孝。悌。忠。信。と。中。庸。の。徳。の。一。し。て。民。の。務。じ。べき

事。い。ご。り。有。し。い。上。た。る。人。の。そ。ま。下。君。子。の。道。も。是。と
去。其。の。い。ご。り。の。い。ご。り。の。大。乃。を。其。の。事。と。て。存。
け。外。に。何。も。も。道。記。事。の。思。考。は。な。れ。ぬ。心。の。憂。も。恐。も。惑。も
為。く。成。心。の。安。樂。が。事。也。天。命。の。安。ん。し。ゆ。り。外。に
先。ま。く。道。は。何。も。也。先。王。の。道。は。善。し。い。上。は。是。り
外。に。何。も。も。事。と。可。も。思。は。ぬ。然。れ。小。量。の。人。に。何。も。也
皆。一。己。の。よ。ぶ。思。ひ。の。か。ら。い。ご。り。の。辨。へ。と。辨。へ。て。有。し。ゆ。ぬ。
已。の。智。か。く。似。も。て。一。女。一。を。事。跡。は。も。道。記。術。と。好。む。物
も。也。是。れ。い。ご。り。と。大。し。か。る。小。乃。大。世界。も。あ。る。是。と。好

む人多うたは。是皆小量のつとふなり。先まへに付ても
かくのぶし紀の類に有し。聖人をもおほく見識の世
間こそそりた。物事ハ不^ふ能^な事^じなり。又そ進^{しん}く^く相^あ互^ごし
得^えるも有^ありぬ。是と多^たや一^い戸^こは料^{りょう}等^らも有^ありぬ。故^ゆに
を必^{かな}天下^{てんか}と治^ちめりぬ。た^たく^く類^るし小^{せう}乃^のと用^{もち}ひ公^{こう}害^{がい}多^たきこ
に^には^はた^た下^{くだ}ら^らもの一^い己^この好^{この}を^をし^して^て一^いゆ^ゆは^は事^じに^に
職^{しやく}分^{ぶん}家^か業^{ぎやう}を^をさ^さ入^い意^いし^し也^{なり}。孝^{こう}悌^{てい}忠^{ちゆう}信^{しん}を^をさ^さ人^{ひと}共^{ども}ひ^ひあ^あり^り
不^ふ苦^くの^のい^いゆ^ゆなり。其^{その}外^{ほか}一^い藝^ぎ一^い徳^{とく}も。学^{がく}得^えて^て皆^{みな}一^い種^{しゆ}
の器^きを^をな^なして^{して}治^ちま^まし^し及^{およ}び^び人^{ひと}の^の心^{こころ}を^をい^いは^はる^る事^{こと}なり。茶^{ちや}湯^{とう}並^{なら}

花^{はな}棋^き並^{なら}我^{われ}踏^{ふみ}鞠^{まげ}類^るハ無^な量^{りやう}なり。事^{こと}之^{これ}尤^{なほ}其^{その}を^をも^もた^たぬ^ぬ
や^やし^し勝^{かち}走^{そう}り^りも^も事^{こと}の^の有^あり^り也^{なり}。想^{おも}ふ^ふて^て人^{ひと}ハ^はた^たわ^われ^れぬ^ぬ
物^{もの}と^とし^し心^{こころ}の^のよ^よせ^せ不^ふか^かな^なれ^れぬ^ぬ事^{こと}なり。物^{もの}を^をい^いは^はる^る小^{せう}量^{りやう}
なり^{なり}人^{ひと}も^も孝^{こう}悌^{てい}忠^{ちゆう}信^{しん}と^とし^し也^{なり}。其^{その}外^{ほか}一^い藝^ぎ一^い徳^{とく}も^も何^{なに}せ^せり^りぬ^ぬ。
け^け方^{かた}より^{より}淨^{じやう}定^{てい}め^めり^りぬ。小^{せう}量^{りやう}し^し人^{ひと}の^の心^{こころ}を^を安^{やす}ん^んど^どめ^めり^りぬ^ぬとき^{とき}
め^め多^た量^{りやう}な^な思^{おも}は^はる^る事^{こと}なり。何^{なに}も^もか^かも^もお^おい^いし^し流^{りゆう}義^ぎし^し
ぬ^ぬが^がた^た相^あ互^ごし^し也^{なり}。け^け後^ご小^{せう}量^{りやう}と^と治^ちめ^めり^りて^て人^{ひと}の^のよ^よし^し淨^{じやう}定^{てい}
め^めり^りぬ^ぬ事^{こと}なり。け^け後^ご小^{せう}量^{りやう}と^と治^ちめ^めり^りて^て人^{ひと}の^のよ^よし^し淨^{じやう}定^{てい}
め^めり^りぬ^ぬ事^{こと}なり。

一 學問は物のつとむるをいふ。け^け後^ご中^{ちゆう}書^{しよ}中^{ちゆう}書^{しよ}を^をい^いふ^ふ事^{こと}なり。

不中事也。幸境投轉。義從來何方。一切以爲入
後計故也。其元六五年の由深志承及以の任所望今更
所答。波連惑也。先ハ幸境より傳授難成り是事境の
当然也。依是孔門ノ諸子も何故に波連學よりせん。其の
子細ハ其門ノ入る門風も事有し。故ノ事も其
風然ハ波連亦より思波さすりせん。後古師友より事
有し。師教よりハ朋友の切磋も知見と博の學問ハ是れ
事也。當時大名之位の權古時的事ゆり。其師とハ
對學事ゆり也。位きりハ朋友也。依是の義も亦也。

成物事は明証也。朋友ハ文門風ノ清りゆり是才の
事也。然其ハ幸境も傳授難成り顯然也。然其由深
志ハ其才也。其師友の代ハ成り事下り也。責てハ是
ハ成り事ハ其才也。其師友の代ハ成り事下り也。責てハ是
損友をきけ益友を逃けり。取友也。然ハ損の未
ハ書籍ハ同ノ終てハ既有友也。益成り書籍ハ其心と
ハ其才也。是より別ハ師友の代ハ成り事下り也。其
下り師も相考ゆり也。其今也考案事と成り相見也。
學問のは形宗師ノ別一流也。其師人乃

文章の著別くは其の。依是宋朝の纂録に在りて。其の
同の進りも亦有りしを其の。四書五經の新注大全等。
宋儒の語録類。詩文に東坡山谷三體詩流奎律髓
等。歴史に八通滄綱目の書信費明等。皆損友と云
ふ。經學に古注。歴史に他小經史記前漢書。文章
楚辭文選韓柳とハ不若し。其の漢以前の書籍ハ老莊列
子等も並に。知見は。是も林希逸解ハ其の友に。詩ハ唐詩選
唐詩而彙。是等と並友として其の。明朝の李空同何
大復李于鱗も其の友詩文宜友に在り。是ハ其の書籍

一も其の友に。先有傳を。通と云思ふに
其の今との也と云。其の。定り其の。依り子細に
其の。吾乃の之に其の。其の。依り
其の。通ハ其の。天下と云。其の。事也
其の。天地自然の及るも其の。聖人の建立
其の。通ハ其の。天下と云。其の。相聖人乃
其の。專に其の。風雅文采に其の。心法理密の法也其の
其の。事ハ。宋儒以来其の。其の。風
其の。文采を其の。其の。天子も其の。事と云

いふ。考を理を授け人を諭ししを尊了仁也。是より
注非邪正し争成るは成り。議論一定して此の極しう成
事し成りぬ。何程事なりとも知見の是を廣き事ありて
之。其片にせしものことなき事ありは成り。是皆教法の遠
てい。孔門の友といへ天地を成る。其文章も宋儒の文章ハ
真しとてかきい假名物にぬ。文章も鄙俚雑語ありは成り。
其の書籍し心を深めりも。漢の三代の書籍ハ漢字也
し。けり差別當かハ其旨多あり也。すをいふ入りの
は、いふたハ其志なりを。

一 文字ハ中華人の言語也。日本の言語ハ詞のにらるる
語有しりしなり。且又中華人も詞古今の語有し宋
儒の注解ハ失古也。古去其時代の書籍も推しぬ
知さず。後世の注解ハ遠多し。依り老莊列子も是道
ゆりし。但六經ハ乃しなりぬ。詞淵也。乃の合点も糸
淵也。依り初学を在傳史記前漢書。類易解
して是多し。

一 同郷しりぬも。朋友聚りて今漢かきしりしは東と
云りて西の合点なりしものも有之りた。是境に朋友

- 一 助 中 子 同 じ 事 方 安 也。櫛 子 の 仕 形 ハ 云 点 と 出 せ
- 一 中 事 ハ 安 じ 物 也。只 目 一 安 安 じ せ と 付 垂 り ぬ 云 鳥 也
- 一 中 事 ハ 安 じ 苦 勞 と 云 一 作 せ じ せ と 付 垂 り ぬ 云 鳥 也
- 一 中 事 ハ 安 じ 事 不 有 じ ぬ 返 屈 也 事 也。只 云 ぬ じ 見 形 也
- 一 中 事 ハ 先 じ 淋 中 事 也。
- 一 待 文 一 候 方 根 也。只 詞 と 似 せ ぬ 也。後 じ 自 然 じ 物 也
- 一 中 事 ハ 安 じ 事 先 じ 事 也。為 中 事 審 じ じ 事 也。

- 一 但 士 大 丈 の 学 問 也。國 及 と 輔 佐 也。家 中 中 事 と 候 也。文 武 政 務 の 才 と 波 成 物 也。為 の 学 問 也。此 候 之 事 也。
- 一 武 味 兼 善 じ 事 也。樂 記 じ 淋 中 事 也。新 曲 也。
- 一 中 事 ハ 安 じ 事 也。不 安 じ 事 也。衰 弊 湯 也。優 劣 ハ 論 事 也。後 世 傳 者 古 の 長 じ 候 事 人 の 上 じ 候 事 也。
- 一 中 事 ハ 安 じ 而 又 其 害 也 事 也。
- 一 中 事 有 自 安 者 必 也。親 喪 中 有 ぬ 礼 不 候 而 良 者 喪 親 一 哀 情 計 事 也。論 候 一 敬 礼 也。說

此亦多し。後儒、聖人の教を、禮樂から奉と不奉に
解^ゲ遠^トい。

一 慎^シ終^ト遠^トい。先王制^{ホウ}礼^ノの意を説^クい。今日受用
し為の語^トいふ事し。

一 涉^シ文章^トも、^トをい。皆宋^ノ學^ノより直^ニ一^ニを依^ルるに
在^リい。

一 後^ノ漢^ノ遺^ノ學^ノハ、不^レ悞^レ未^レ熟^シ一^ノ時^ノの書^ヲい。由^リ用^ル成^リ友^ニい。
仁齋^ノ周^ノ齋^ノかゝの書^ヲ也^ト。中^ノ後^ノ成^リ友^ノ只^シ志^ヲ也^ト
於^テ是^ニか^ニと^シ學^ノ子^ノの^ノ中^ニ要^スい。以上

一 中^ノ後^ノ成^リ有^リし^レれ^レ又^レ下^ノ入^ル也^ト。其^ノ中^ニ學^ノ同^ノの^ノ乃^ニ文章^ノの^ノ外^ニ
在^リし。古^ノ人^ノの^ノ乃^ニ古^ノ籍^ノより^レも^レい。古^ノ籍^ノハ文章^ノに^レは^レ文章^ノ
を^レ含^メ得^ル也^ト。古^ノ籍^ノの^ノ何^レ淋^シ一^ノの^ノ我^ノ意^ヲを^レも^レ雜^スえ^テ予^ノの^ノ
乃^ニ古^ノ人^ノの^ノ言^ハ明^クい。聖^ノ人^ノの^ノ乃^ニ聖^ノ人^ノの^ノ教^ノ法^ヲ明^ク述^スて^レ
る^ノ所^ヲ乃^ニ言^ハし。其^ノ教^ノ法^ハ古^ノ籍^ノより^レも^レい。乃^ニ是^レ
文章^ノに^レ歸^ス一^ノ也^ト。乃^ニ不^レ文章^ノも^レ字^ノ義^ヲも^レ時^ノ代^ノ隨^フて^レ展^展
轉^スる^ノ眼^ノの^ノ付^ル不^レ也^ト。後^ノ世^ノ儒^ノ者^ノ我^ノ物^ノが^レさ^ニと^シま^レる^ノ乃^ニ由^ル
ハ^レ尊^ク文章^ノハ^レ卑^キ事^ナり^ト也^トい^ハり。文章^ノを^レ輕^ク看^ム道^ノ
い^ハり。古^ノ人^ノの^ノ心^ノ付^ル也^ト。古^ノ人^ノの^ノ心^ノ付^ル不^レ也^ト。古^ノ聖^ノ人^ノの

教法見て外道なり。教知見して聖人の言と今も同じ
その教皆自己流しと成り。末学中に少くも識見並鄙陋なる
程朱陽明吾儒と周齋仁詠等の末所と伝はるる孔
子も甚愛ひたたくてうらう。佛者の坐禪釋迦の法と凡
不用して。深く法地日蓮と伝はるる。教も古今
なく。及も古今なく。聖人の及も今日の亦天下も流るる
事なり。外にほ飛ハキし。聖人の教も今日の人も才徳と
成就りし。是又外にほ飛ハキし。古今通貫なり。是に
古聖人の道も教も及も亦なり。及も教も普く天下の

人、^徳徳と志ひる事と。天下の人、愚不肖多く噴智
かくゆり。是又古今の終りなく。然らば古聖人の教も教
も後儒のより教なり。理の六徳なり。決りて苦なり。事
明らば。理の六徳なり。愚なり。人、今得成事。事なり。古聖
人の乃も教も皆ささくもにせむりし。是又。是又。是又
はらば。理は不知り。自然と風俗移り。人の心も
直りて。亦天下も流る。又一人の上り。風俗の移る
より自然と知見各別し。ひりけりて才徳を成就し。事
に。是聖人の道。聖人の教法の妙用なり。是故に今日の

條とて漸く事^ニ。是故物格而后知至知至而意誠と
言ふ天下平と。順流直下^ノ文勢^ニ。此其格物^ノ一
條とて事^ニ漸^ル。以上^ノ誠意^ノ正心^ノ脩身^ノ等^ノ工夫^ノ意
事^ニ。是又面^シ修^メ見^ル是^ノ時^ニ也。物又明明^ノ徳
於^テ天下^ニと云^ハ注^シ。使^レ天下^ノ人皆^ク有^リ以^テ明^ル其^ノ徳^ト有^ル。
心と平^ク少^クて^モ心^ノ悦^ムと^モ我^レ也。堯舜^ノ世^ニ也。此^ノ事^ノ世界
有^ル無^キ事^ニ大^ニ不^レ存^ル。此^ノ朱子^ノ説^ニ也。此^ノ大學^ノ小
學^ノと分^テて。大學^ノハ庶人^ノ之^レ志^ヲ其^ノ心^ノより^テ不^レ存^ル。此^ノに
至^リて^モ又^モ天下^ノ人^ノ皆^ク大學^ノ之^レ教^ヲを施^ス可^ク相^見

者^ノ也。此^ノ等^ノ不^レ存^ル言^ハ存^ル也。是^レ孟子^ノ學校^ノ
事^ノと説^ク也。人倫^ノ明^ル於^テ上^ニ庶民^ノ親^ク於^テ下^ニ有^リ作^ル。
此^ノ其^ノ親^ク民^ノハ新民^ノと不^レ改^ムと^モ也。此^ノ其^ノ親^ク民^ノハ文字^ニ也。
書^ハ經^ニ而^テ革命^ノの^ノ也。大學^ノ之^レ教^ハ平日^ノ事^ニ也。
是^レ等^ノ不^レ存^ル其^ノ甚^ク也。又格物^ノ二字^ノと窮^ク到^ク事^ノ
物^ノ之^レ理^ヲ注^ス有^リ也。是^レハ易^ク窮^ク理^ノ文字^ノと借^ル來^ル
て^モ注^スたる也。格^ハ到^ク也。物^ハ事^ノ也。格^ハ到^ク事^ノ物^ノ之^レ理^ヲ也。
而^テ格^ハ窮^ク也。窮^ハ到^ク事^ノ物^ノ之^レ理^ヲ也。窮^ハ到^ク事^ノ物^ノ之^レ理^ヲ也。
注^スハ本文^ノ之^レ窮^ク理^ノ二字^ノと付^テ添^テ義^ヲと生^スじ

此物也。此後疑義六章。且易有窮理八
 聖人易を作す。と讚歎したる詞也。全く今日学
 者の上事してハ等しい。心を平うして心解して成程。
 今日天下の理ハ窮者、事ハ全き物よりハ。是皆人の力
 以事をして人と強く中物とハ。且又三綱順八條目
 委細カク修訂してハ形。何として大学に計有六経
 一而一も等しい。是等し不疑ハ等しい。且又程朱
 之学同ハ。理氣を分ち。天理人欲を分ち。天地氣質
 と分ちり。りかハ等しい。皆肝要カク事と。何として

古く聖人ハ说不多し。果して程朱ハ说是ら。

程朱ハ孔子より事分附し。又古く聖人ハ友
 法也。程朱ハ说ハ別一流。中物とハ等しい。
 論より至りし。多くハ時代不同カ。其意カ
 了。後世利口ハ徒。事ハ。是ハ古書。熟し。

古今之差別ハ事ハ。事ハ。事と。事ハ。古の
 聖人ハ智ハ。古今と貫透して。今日極の弊を明
 也。賢ハ古聖人ハ。古今と貫透して。其友ハ利益
 上古も末代も。皆自カ。其友ハ利益

よく理氣本然氣質天理人欲等皆古聖人之教
なり事よ。修りし仕形。知行を分ち格致知識
意正心持敬かして。是又古聖人之教。無しるべき。
聖經のよくしりて。成程のちりし。在りて。危殆を
しりて。入道なき。わたりて。思ひ。只先本文計を識く
心得なき。置。在傳史記漢書。其の深き義理
無し事計。書と。成程のちりし。在りて。危殆を
文字の所なき。りて。文面。義理。其の深き。其後六
経と。成程のちりし。在りて。危殆を。其の深き。其後六

老の懺悔物。了りて。愚老が。修りし。其の深き。其後六
に。其子細。 懺悔。命を。清小姓。其の深き。其後六
忘きを。吟味は。夏日。永く。毎日。友人。相對。未讀を
させて。承りし。の。其の深き。其後六。毎日
明六時。夜の。四時。事。合事。大小。用。其の深き。其後六
計。其の深き。其後六。其の深き。其後六。其の深き。其後六
讀。人。只。其の深き。其後六。其の深き。其後六。其の深き。其後六
物。其の深き。其後六。其の深き。其後六。其の深き。其後六
讀。人。其の深き。其後六。其の深き。其後六。其の深き。其後六

中。此の語をみるに文法を見るに、かく讀まざる。
うろく見居の句。何れかかゝる疑はれ兼つ。是を
種し。只今、經學の大形が物より事合、其事より
も。注ふたり早く會得し。然るに益あること。も
自己の教めざる事。此辰最老、懺悔物に依。
夫れ門弟子の教も各其母の。但し、要否、博く書と
見たり。かゝる經書に、中文計と譯して會得せし。
坊く書と、此院をなせりて。いつと、朱注を、此院に作
舊見する事、中方女の。坊く外の書と見り。經書に

^不干^久涉^事。一^想石^也。然^也。無^用。一^用。一^事有
了。思^いぬ^べく^らい^の理^の益^{ある}物^{なり}。

一 道ハ事物當^りの理^{をも}也^{なり}。天地自然ノ理^{をも}也^{なり}。
聖人^ノ建^立立^成成^{たる}の^爲也^{なり}。必^{して}天下^を治^むは^ば此^の理^を存^すて
事^を以^て不^審審^み水^を知^り。宋^の学^も亦^{して}此^の理^を存^すて。然^るに^先。
天地自然ノ道^ハ事^ハ先^に存^すて。然^るに^有る^理の^毫髮^の差^も。
の付^けも^たき^き天地其^の理^も存^すて。然^るに^向上^の至^極相^分。
以^て其^の説^の至^極と^信じて。聖人^の存^する^理を^破却^すて。事^を以^て。
其^の理^ハ存^する^不なり。故^に事物當^りの理^ハ存^する。天地

自然く及ぶ見を底に帯いて説出たる説くは
是皆自信なる事厚く。古聖人を伝ふる事薄き本
より生きたる説くは。宋儒は格物致知の修治を以
て事を知つる處きとら。其よりたつる處き皆とら
おしり極め出して。是即聖人たるを説くは。子
是臆見なり。子おし見識殊を以て随ひて。始め
かくあるべし。おしにる事の後にたつる事と。おしにる事
のいへるも。つる處きとら。或は。早迷ふ欄柵を以て入
やうと思ふなり。おし見識を生じたる事なり。聖人たるは

甚深廣大にして。中く學者は見識を以て有る處き
皆の原理を見ゆ事と。おしにる事也。おしにる事と我知り
顔に成程を知つるべし。皆とら。おしにる事。聖人は。おし
にる印可を以て心根。識を推し。至極と云つる。其
上聖人の乃を己が心の如く。合せて成程を知つる處き
皆と。清きき。おしにる時。後。おしにる。合たる。不斗を
おしにる。己が心。おしにる。思ひ。おしにる。事。成程。おしにる。
聖人たる。おしにる。皆。おしにる。臆見。成程。おしにる。乃
こしにる。見識。長き。随ひて。見識。清き。迫り。おしにる。

聖人ノ乃キ甚深廣大ナル節ハ曰ク遠き可ク致
果ハ言慢甚成行事ハ其ノ事物尚行ノ理ハ
洞ハ廣ク何ノ事モ用ひらケテ領ハ茶湯立花和歌等
道剣術。或ハ小笠原ノ立廻リニモ。上下の着ナリ。大小の
拵振ルモ。是ハ何ノ事モ苦。それハ何ノ事モ苦。
能位位ノ何ノ何ノ物ハ。是皆聖人ノ乃キ何ノ
事ハ也。事ハ移ラテモ理ハ同一事ノ料方ナリ。亦ハ
乃キ教トモ聖人ノ乃キ其ノ事ハ。誠ニ杜撰ノ甚成
ト云フ也。其志杯ハ心ハ只深ク聖人ト信シテ。心ハ

如ク有る事ト人心ハ思中ナリ。聖人ノ乃キ其志
母モ怒成る事モハ何ノ事モト云ハ何ノ事モ。
乃キ其志ト後ハ其志成。乃キ天性ハ。坦路ヲ行
ト云ハ成リノ事。且又道ハ聖人ノ建立志ハ。乃キ
先道ノ内モ。亦モ立テテ事ハ倫ト云ハ。又倫ハ内モ。孝
ノ愛ハ天性ハ。兄ノ情ヲ以テテ。幼少ナリ父母ノ心
物ノ事ハ。乃キ其志成。乃キ其志成。乃キ其志成。
事ハ不存ハ。夫婦ノ倫ハ。伏羲ノ立玉ヲ乃キ。洪范ノ典
只畜類ノ如ク。乃キ其志成。乃キ其志成。乃キ其志成。

聖人^ノ立玉^ハ^ノ事^ニも人^ノ是^ヲ存^ス之^ル也。然^レ大^ニ聖人^ノ甚^ニ深^ニ廣^ニ大^ニの智^ヲを以^テて人^ノ乃^チ生^レれつき相^ニ應^ジ建^ス立^ス玉^ル也。是^レも人^ノ間^ノ界^ノと^ハ不^レ相^ハ立^ス玉^ル也。乃^チを學^ビ玉^ル也。今^レ往^キ又^レ倫^ハた^モも大^ニ作^ルハ存^ス之^ル也。乃^チを成^ス之^ル也。見^ル也。生^クつきたる相^ニ應^ジた^ル人^ノバ^ニ穀^ヲを耕^シ玉^ル也。社^ノ農^ノの建^ス立^ス玉^ル也。事^ニ也。宮^ノ室^ヲを作^シ玉^ル也。織^ヲを織^シ玉^ル也。事^ニ也。黃^ノ帝^ノノ建^ス立^ス玉^ル也。事^ニ也。是^レ又^レ人^ノの性^ヲ相^ニ應^ジ建^ス立^ス玉^ル也。今^レハ世^ノ界^ノノ遍^ニ滿^スして天^ノ地^ノ自^ラ然^ニの事^ニ也。惟^テ人^ノノ存^ス之^ル也。又^レ倫^ハ乃^チ其^ノ如^クに^シ也。古^ノ聖^ノ人^ノノ恩^ハ也。

廣大^ニを爲^スる事^ニ也。是^レ等^シ人^ノノ聖^ノ人^ノノ恩^ハ也。乃^チ存^ス之^ル也。乃^チ徳^ヲを極^メる廣^ニ大^ニから天^ノ地^ノと^ハ一^ニ也。天^ノ地^ノ日月^ノの恩^ハと人^ノ知^ルざる^ニ也。徳^ハ合^ス天^ノ地^ノ曰^ク帝^トは^シ是^レ等^シ也。是^レ等^シ人^ノノ思^ハ玉^ル也。道^ハ當^リの理^ニ也。乃^チ存^ス之^ル也。乃^チ舌^ノの長^キ修^ムる聖^ノ人^ノノ可^クと^ハ一^ニ也。乃^チ存^ス之^ル也。乃^チ思^ハ玉^ル也。乃^チ性^ヲ相^ニ應^ジ建^ス立^ス玉^ル也。乃^チ子^ノ思^ハ玉^ル也。乃^チ謂^フ道^ハ也。乃^チ謂^フ穀^ハ也。乃^チ謂^フ教^ハ也。乃^チ謂^フ廣^ニ大^ニ也。乃^チ謂^フ聖^ノ人^ノ也。乃^チ謂^フ易^ハ也。乃^チ謂^フ中^ハ也。乃^チ謂^フ入^ル也。乃^チ謂^フ出^ル也。乃^チ謂^フ易^ハ也。乃^チ謂^フ中^ハ也。

節目と立玉(一)と教(一)の國天下と活(一)を教(一)
り(一)の先名目(一)相遠(一)の六經論(一)の(一)事(一)の宋
儒(一)例之(一)理(一)子(一)と。活(一)も身(一)竟(一)教(一)也(一)乃(一)理(一)と以(一)推(一)
つ(一)た(一)ら(一)は(一)上(一)の(一)理(一)の(一)國(一)中(一)に(一)振(一)り(一)た(一)宋(一)儒(一)の(一)理(一)を(一)推(一)
物(一)と(一)し(一)古(一)書(一)の(一)事(一)と(一)し(一)事(一)の(一)教(一)と(一)し(一)理(一)の(一)つ(一)く(一)も(一)學(一)の(一)對
比(一)を(一)及(一)して(一)意(一)を(一)在(一)す。物(一)又(一)天下(一)國家(一)と(一)活(一)は(一)位(一)極(一)を(一)及(一)
つ(一)る(一)事(一)の(一)中(一)に(一)合(一)息(一)不(一)多(一)の(一)也(一)是(一)又(一)宋(一)學(一)の(一)中(一)に(一)活(一)れ(一)る(一)也
了(一)有(一)し(一)の(一)先(一)我(一)道(一)一(一)元(一)祖(一)の(一)竟(一)身(一)也(一)堯(一)舜(一)の(一)天(一)子(一)が(一)り(一)夫
より(一)後(一)聖(一)人(一)と(一)稱(一)は(一)只(一)禹(一)湯(一)文(一)武(一)周(一)公(一)也(一)何(一)れ(一)も(一)皆(一)天下

玉(一)を(一)活(一)た(一)る(一)人(一)が(一)り(一)孔子(一)は(一)此(一)道(一)と(一)傳(一)へ(一)る(一)人(一)也(一)故(一)に
聖(一)人(一)の(一)道(一)を(一)專(一)天下(一)を(一)治(一)む(一)を(一)治(一)む(一)る(一)也(一)禮(一)樂(一)刑(一)政(一)は
皆(一)道(一)の(一)り(一)論(一)語(一)子(一)游(一)武(一)城(一)宰(一)を(一)て(一)弦(一)歌(一)の(一)聲(一)一(一)たり(一)
を(一)孔子(一)笑(一)む(一)ハ(一)子(一)游(一)君(一)子(一)道(一)則(一)愛(一)之(一)小(一)人(一)學(一)道(一)易(一)
使(一)之(一)を(一)治(一)む(一)也(一)不(一)明(一)之(一)樂(一)の(一)を(一)及(一)して(一)之(一)を(一)治(一)む(一)也(一)孔子
一(一)直(一)躬(一)と(一)名(一)目(一)一(一)遠(一)有(一)乃(一)友(一)の(一)宋(一)儒(一)の(一)注(一)解(一)を(一)考(一)
け(一)道(一)字(一)の(一)不(一)り(一)の(一)朱(一)子(一)の(一)默(一)して(一)過(一)さ(一)れ(一)五(一)倫(一)の(一)不
物(一)も(一)是(一)道(一)を(一)治(一)む(一)天下(一)を(一)平(一)治(一)す(一)の(一)事(一)也(一)聖(一)人(一)一(一)立(一)玉(一)の
事(一)也(一)聖(一)人(一)一(一)乃(一)の(一)事(一)也(一)天下(一)國家(一)を(一)平(一)治(一)す(一)為(一)す(一)建(一)立(一)

かされたり事。脩身事。有之。身脩。これ。下尊信せざ。及たり。君。子。脩身。今日。学者。と。し。不。より。見。識。を。生。し。て。聖。人。と。な。天下。を。治。む。道。と。し。不。より。見。聞。六。六。經。の。掌。を。指。す。心。を。我。身。一。つ。思。ふ。心。法。理。を。成。し。成。行。今日。脩。身。と。し。聖。人。と。求。む。聖。人。と。成。得。たり。天下。國家。の。治。り。治。ま。り。思。取。り。事。の。始。ま。る。佛。老。の。意。地。陷。釋。迦。の。乞。食。の。境。界。を。家。の。中。に。妻。子。も。た。

も。て。國。天下。も。持。す。身。に。其。乃。ち。我。身。一。つ。の。意。地。等。不。聖。人。と。な。之。大。欣。し。け。れ。り。帝。嘗。て。徳。と。し。て。天下。と。治。む。り。堯。舜。と。し。て。始。て。道。を。建。立。す。り。れ。り。祖。述。堯。舜。又。書。は。も。堯。舜。と。し。て。始。す。り。れ。り。堯。舜。と。し。て。始。す。り。れ。り。徳。と。し。て。天下。と。治。む。り。六。道。の。建。立。す。り。及。た。り。事。也。聖。賢。の。紀。世。も。此。乃。ち。傳。ふ。時。に。聖。賢。在。世。の。一。つ。天下。國家。平。治。が。成。る。を。和。を。工。夫。し。て。建。立。す。り。一。つ。の。事。と。し。禹。湯。又。武。周。公。の。継。て。脩。補。す。り。たり。事。也。是。れ。一。つ。て。孔子。も。さ。す。り。れ。り。

道ハ初り玉ふ也。宋儒ハ其徳を以て天下を治むる事計と云
得て。道ハ子物と云ふ也。是ハ孔子の好學と此
ハ博く學ひ玉ふ也。其解不明白。或ハ謙河といひ。或ハ學
者と勉むるの語杯と云ふ也。是ハ己が志を以て
聖人を量り。聖言ハ真實なりと不知也。士女更た其
志を輔て國天下を治むる事計と云ふ也。聖人の乃
を知りてハ尸^ま強^う識免也。かたけり及と云ふ事ハ此
只我身ひつと佛も聖人もあらずといふ根を切らば
此事ハハ^ま思^うて思^ふ也。其上聖人ハ成得也。國天

下ハ道の性も治するといふ。君と輔相と。其君は聖
人ハ成得んと思ふ也。年々老日も暮れて。國天下ハ何れ
の日ふり平治も命^{めい}也。宋儒有^あ作^{さく}而無用と云ふ識也。其
學^{まな}術^{じゆつ}ハ誤^{あや}り出^いたる事也。適^あう^まく^ま不^あか^まず^ま。終^{つひ}に^ま道^{みち}
下^{くだ}成^なり。畢竟國天下を治むる事計と云ふ也。其
嫌^{きら}ひ^みハ心根。禮樂刑政と粗^{あら}迹^{あと}と見^みて。乃^{すな}ハ一^{いつ}に^{いつ}精^{せい}微^びかり^かり^か
と云ふ不^あち^あり^あず^あ。道ハ精粗もかく本末もあ^あ。一^{いつ}に^{いつ}貴^き之^の。此^これ^こ
精^{せい}を^を貴^きを^を粗^{あら}を^を賤^{けん}を^を佛^{ぶつ}老^{らう}の^の緒^{しゆ}條^{じょう}に^に。此^これ^こハ^ハ大^{だい}切^{せつ}と^と云^いふ^い
一^{いつ}宋^{そう}儒^{じゆ}古^こ言^{げん}を^を失^あり^あす^あ。乃^{すな}ハ^ハ古^こ今^{こん}一^{いつ}致^しと^と云^いふ^い。此^これ^こハ^ハ古^こ今^{こん}一^{いつ}致^しと^と云^いふ^い。

指其六宋學と云然り。其序宋以前は書務淋蓋す。其
是讀去し爲し害也。第二文章は爲す中。文章叙す
議論は二体有り。宋儒は書者皆議論と叙す。其は
文章は叙事を第一とす。叙すは体かきふは。是
宋儒は文章は真そかきつ假名書は。詞は風雅な其
陋は文字は。是は難し。其面新移り。其何は
かきつてもは解し。其成りき。其文章書不は。是
文章は爲の害也。第三經學は爲し害也。其は
古云と失り。經書之文而遠中。其氣天理人欲等
付添有し。其聖人なる一層の皮膜と隔り。其作宋
儒は學。古聖人の書と文而解し。其解しは物と
其は。程子朱子何れも聰明特達の人と。古聖人
をくまきて別し。自ら見識有し。其見識は經書を
捌きし。其物は。宋儒は使して古聖人なるは
求む事。其と南より燕は。其は求む。其は經學
は爲の害也。其等し。子細と以て損友より事也。
其見識も定まり。其學問も。其は。何は。其は。其
不苦事。其は。其は。其は。其は。宋儒は書は

嫌ひし中なりて言ふ。今程朱執着所ぬかむかく言ふ下は
そつたは。宋儒く程朱の流のつ人ハ是非邪正し善
別つて成行。地毎にまをりすこと記し改したる事と
好む。そハ言慢長及怒多く成中抑し。風雅文才との
ひやくかり事ハ嫌ひ成行。人柄悪及成中ゆ。世上に多
ウたは。山崎清見人柄も大形に付て言ふ。是そ流の悪
及而已そも言ひ。元來其流偏り不より出たる
事そは。世上そ俗人の中。そ同志たる人ハ人柄悪
中ゆの好しそ言ひ。此ぬかむく言改む中ゆは成行

中家筋しは。一入宋学し害も中受不も成行は及はぬ。
想して学同し乃心を向し立て。程朱といひりし思ひ
ゆく程朱程に成といふ思ふ。程朱ハ誰人にもたしす真
經書と学ひりて漸くこの位に成りし。今程朱ハ流に付
中学ひりてハ。程朱をにて成行をりし言ひ。程朱ハそ言ひ
逐て言ふ中学ハ。皆く学たの上も。鬼角程朱ハ説空
及思ふ。其時程朱と中用ひりしウたは。只今程朱と
信仰ぬかむ。只人をめさし抑し。愚老門風ハ只此ハ
誰にもたし直る古聖人ハ書り見聞き作と説

途は

詩書二経の今讀は宋は一統の依り孔子の時分の詩書より外に古物ハ多し。論語孟子禮記等三引有し。外に書と中相ハ多し。詩云書云と斗有し。詩書と中相ハ古代に學同そりね好まふと存。但し新注にて其えり多し。たゞ新注も成凡本文又又面と誤りて是も中相ハ我存。詩經朱傳。朱子に依り内とし不知來り相害も少く。書經新注ハ蔡沆の作をた見ひもり相し。書經ハ旁通通考に中相とつ

此傳を以りて中相。詩經ハ世本古義と中相之尤和板に多し。せめて説約と成凡中相之尤。詩經ハ宋儒の誤り文成支多し。詩經ハ勸善懲惡しむ事。是大き成誤。勸善懲惡しむ事。今少くは仕刑外も有し。詩經ハ勸善懲惡しむ事と施と云ふものさりとてハ同之。事ハ古聖人ハ智也。名所のつり不事多し。中相ハ詩經ハ淫奔ハ詩多く有之。朱注ハ惡を懲志むる有し。却て淫を導く爲成下。是等し不中相之尤。

詩經ハ方々及リテ淵亨等ト相見テ以テ。論語ト不学詩無
以言ト有シ。詩三百使四方不徒專對ト有シ。是詩
才之博シ教之丁寧也。洞々人性ニ通達スルもの。詩經ハ教
ト人性ニ通達スルもの。抑々事ハ成亨抑々以テ。宋儒ハ非
邪正シ見テ以テ。めらき居りぬ。論語聖言ニ詩經ハ事
有之リ。不学不事。是非邪正シ見テ見テ見テ。勸懲ハ為
ト見テ以テ以テ。是等ト云。詩經ハ覺ルもの大抵の言ハ
ゆれ中を。詩經ハ詩也。後世ハ詩也。全く題目云ハハ。
詩經ハ只詩ト由覺ルもの由也。

一 友府事務ハ文字ニシテ中ニ越ス。通典律令ハ其覺
不爲之ハ淵亨抑々以テ。異朝の歴代ハ代々の制法ハ有リ。
皆其代其代ハ同祖シ君の料第トシ世界全体ハ組立
移リ有リ。制法有リ。是ト云得ル不亨ハ其時
代ハ事淵亨抑々以テ。歴史ト見テも得ル淵亨抑々以テ。
三代ハ事經書ハ上。周ハ儀禮礼記淵亨ハ見テ以テ
不亨ハ日本の事淵亨。律令延喜式ト見テ以テ。公家の代
事ハ淵亨抑々以テ。右ハ異代々の制法ハ皆日本乃
昔ハ制法の場ト云知ル。今日當代ハ上も下も異代ト

移り。其文昔公家の代々移りて事明く相承れり。
今日一政務し上明く事明く書込思慮等し理
子の書付見ゆ人々事務し遠と不好り。正生の胡椒丸
吞みゆ見下地し席よりを。唐太宗一政務可々
天下治りゆと計米三濟し有し。一斗の米と濟三文
賣りゆりゆ。近年米價少下直りゆ。武家町人
百姓九困急ゆ。介の遠は高きゆ。是等
制度し移りり世界し模範も格別し成りゆ事務し
友府事務し文字し。下地し。法也。付とありゆ。

一 詩作の成りたるは上代の詩も後世の詩も同
事なり。詩作の成りたるは詩経に於てあり。

一 楚辭國河の成りたるは一版なり。其介呂氏春秋淮南
子説苑家河戰國策老莊列子も此後なり。是れなり。
智見と廣めたり。博學ゆりゆ肝要なり。孔子も博學
は仁なり。此不近代の理なり。者、雜事しを總する聖言
背きなり。只日蓮宗一教しなり。

愚者が作辯道しゆ。此は下り。辯道辯名ありあり。
六世奉幸皇太后万病相成り。外務と絶居り。暇

有之是法相認を以て以後多用と云ふ是程に細
と成る下は先付答と云ふも得と云はれぬ。金銀と
計工夫を付し由は實に其上一と云老中条も何れも
乃理有し極に思ふ。愚老の筋に後い由は子も由は
思ふに。辨乃辨名に付し付書寫の段を越す
此れも言及るべきの端と長し。不入りし好む以上

塾生根遜志伯修編録

答問書下終

